

2015年11月9日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

CBS9106(SL-801)に関するASH年次総会での発表について

当社が創出し2014年12月に米国Stemline Therapeutics Inc. (以下「Stemline社」)へライセンス導出した抗癌剤候補化合物CBS9106(Stemline社における開発コード: SL-801)について、2015年12月5日から8日まで米国フロリダ州オーランドで開催される米国血液学会(ASH、American Society of Hematology)第57回年次総会においてポスター発表がおこなわれますので、その概要をお知らせします。

この発表では、2015年5月に米国腫瘍学会(ASCO)年次総会で発表した内容に加え、

- ・ 細胞株を用いた細胞毒性スクリーニングと遺伝子データベースの突合分析によって、主要な癌遺伝子(KRASなど)・癌抑制遺伝子(TP53など)の変異に関係なく抗腫瘍活性が確認されたこと
- ・ 非小細胞肺癌細胞株NCI-H226および前立腺癌細胞株22RV1を移植したモデル動物実験において、顕著な腫瘍増殖抑制効果が観察されたこと

など、追加試験によって新たに確認された複数のCBS9106(SL-801)の特性が示されます。

発表の詳細はASHウェブサイトに掲載されているアブストラクト(抄録)をご参照ください。

(英文) <https://ash.confex.com/ash/2015/webprogram/Paper79895.html>

“SL-801, a Novel, Reversible Inhibitor of Exportin-1 (XPO1) / Chromosome Region Maintenance-1 (CRM1) with Broad and Potent Anti-Cancer Activity”

(参考訳)『広範かつ高い抗癌活性を有する新規の可逆的XPO1/CRM1阻害剤 SL-801』

また、2015年5月にASCOで発表した内容については、2015年5月14日に当社が公表したプレスリリースをご参照ください。

<http://www.nikkei.com/markets/ir/irftp/data/tdnr/tdnetg3/20150514/9a64pc/140120150514477776.pdf>

今回の発表においても

『SL-801はXPO1阻害剤として広範かつ高い抗癌活性を示す有望な臨床開発候補化合物である』

『SL-801がXPO1に可逆的に結合する特徴によって、作用と副作用の間の幅(セラピューティックインデックス)を拡げられる可能性がある』

という従来からの結論は変わらず、今回新たに示された結果によってそれらの可能性はさらに強まりました。

これらの試験は、より効果的な臨床試験を設計するために実施されているものです。

現在Stemline社は、臨床試験の開始を申請するIND申請作業を進めています。

なおStemline社は、2015年11月5日公表の同社プレスリリースにおいて、SL-801について「固形癌および血液癌の両方を対象とする臨床試験を2016年の早い時期開始することが期待されている」と述べています。

(英文) <http://ir.stemline.com/releasedetail.cfm?ReleaseID=940962>

本件による当期業績への直接の影響はありませんが、CBS9106臨床試験準備の着実な進捗を示すものであり、当社の中長期的な企業価値の向上に寄与するものと考えています。

以上